

市民力を高める「シキテラス」ー市民協働の志気を高め、夢と未来を語るステージー

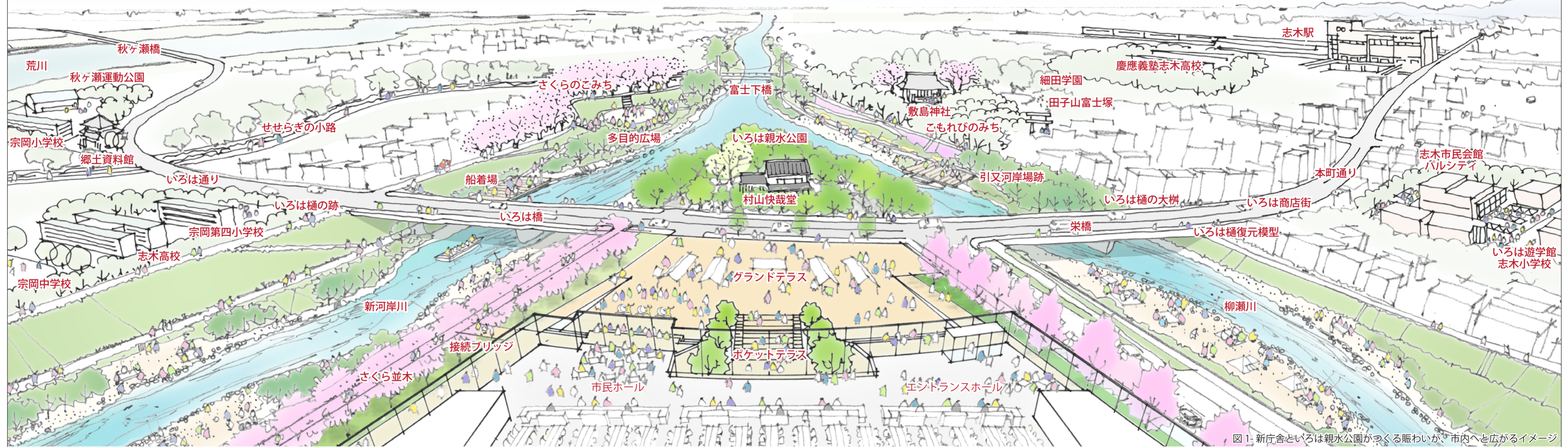


図1- 新庁舎といろは親水公園がつくる賑わいが、市内へと広がるイメージ

1 市民力でまちづくりをリードする

志木市では「地区まちづくり会議」による市民協働をはじめ、「志木市コミュニティ協議会」など、市民力の高い団体が様々な活動を展開しています。新庁舎はその活動が加速し全市に広がっていく拠点となるように計画します。

「庁舎づくり」は「まちづくり」

市の中心地にある庁舎は、まちと市民をつなぎ、志木市のまちづくりを考える場となります。市の歴史や上位計画を丹念に読み込み、これからのまちづくりのキーワードを抽出し、市民力が活かされる場をつくります。



図2- 本町通りから見た新庁舎のイメージ

■ 志木市・水と緑・健康

- 川のまち志木市の景観を、庁舎のどこにいても一望できる施設とします。
- 新河岸川の散策路と広場の接続を検討し、川沿いの景観を楽しむことができる場をつくります。
- グランドテラス、ステップテラスは「いろは親水公園」と一体となり、自然を感じながら健康遊具やバーンゴルフなどを楽しみ、汗を流す場となります。
- ノルディックウォーキングなどのコースとしてテラスを利用できます。



図3- バーンゴルフ 図4- ノルディックウォーキング



図5- 自然豊かな環境の中で汗を流す場となる

■ 志木市・歴史・未来

- 舟運で栄えた引又宿のあった本町通りには、志木市の商都としての面影を伝える、建造物が残されています。
- 新庁舎の広場は、かつての引又宿のにぎわいのような、人々の交流を生み出す場となります。
- 庁舎には郷土資料館と連携した市の歴史コーナーを設け、まちの情報発信の場とします。
- 立体的に利用できるテラスは、多様なイベントの開催が可能で、かつての二・七市のにぎわいを生みだします。

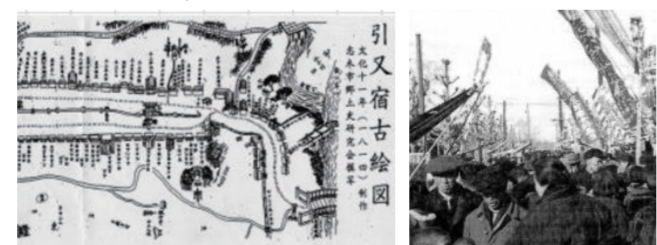


図6- 引又宿絵図 図7- 二・七市



図8- テラスを利用した土曜市の開催

■ 志木市・都市・農業

- 庁舎は、「いろは樋」により栄えた、かつての農業が作り出した風景やコミュニティを考える場とします。
- ステップテラスや外構の緑地を菜園などに利用し、市民の農業体験が可能なスポットを設けます。
- テラスで開催される「地産地消きの土曜市」や「アグリシップしき」は、収穫物を通じた市民交流の場となります。
- 市民ホールにミニキッチンを設置し、簡単な調理や料理を持ち寄ったイベントなど、「食」を通じて農業にふれあう場を検討します。



図9- アグリシップしき 図10- 市内の農地のイメージ

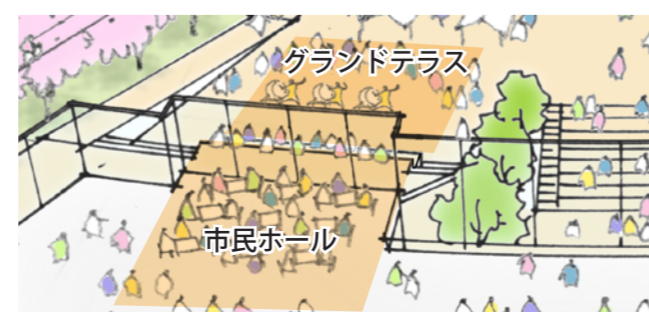


図11- 市民ホールで地産地消イベントを開催

2 仮庁舎をつくる5つのポイント「安全性」「コスト縮減」「工期短縮」「機能性」「利便性」

志木市では「地区まちづくり会議」による市民協働をはじめ、「志木市コミュニティ協議会」など、市民力の高い団体が様々な活動を展開しています。新庁舎はその活動が加速し全市に広がっていく拠点となるように計画します。

「安全性」

- 水害・地震に強い仮庁舎の早期完成
- 仮庁舎の早期着工と早期完成により、耐震性能が不足している現庁舎から仮庁舎への移転を最優先に進めます。
- 現庁舎敷地の駐車場内には、先行する人工地盤の上に仮庁舎を建設し、浸水から仮庁舎を守ります。
- 人工地盤を仮庁舎の基礎とした計画とし、仮庁舎の耐震性を高めます。
- 工事区分が明快な取合とし、仮庁舎期間中に利用した柱は転用できる計画とします。

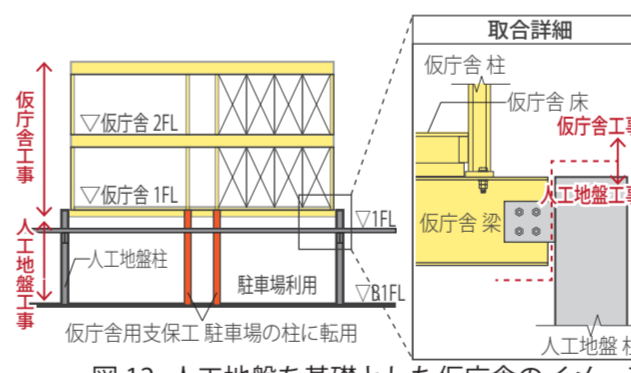


図12- 人工地盤を基礎とした仮庁舎のイメージ

「コスト縮減」

- 仮庁舎建設費を約1割縮減するための工夫
- 仮庁舎は二階建てを基本とします。規格部材のみでの建設が可能な二階建ては、三階建てに比べコストダウンが可能です。
- 1棟が2000㎡以下の分棟型とすることで、屋内消火栓の設置義務を緩和し、配管や水槽等の工事費を縮減します。
- 人工地盤を基礎として利用することで、仮庁舎に伴う基礎工事、地盤改良工事を縮減します。
- 環境負荷を低減し、維持費を縮減
- LED照明+自動制御により電力を低減します。
- 屋根材や壁材の高断熱化により、空調負荷を低減します。

「工期短縮」

- 二階建ての低層仮庁舎とすることで、作業ヤードの限られた敷地でもスムーズに建て方が行え、建設工期を短縮できます。
- 屋内消火栓の設置が不要となる分棟配置により、消火設備の配管、水槽工事をなくします。
- 基礎工事は人工地盤の鉄骨を利用した乾式工法とすることで、作業性の向上を図ります。

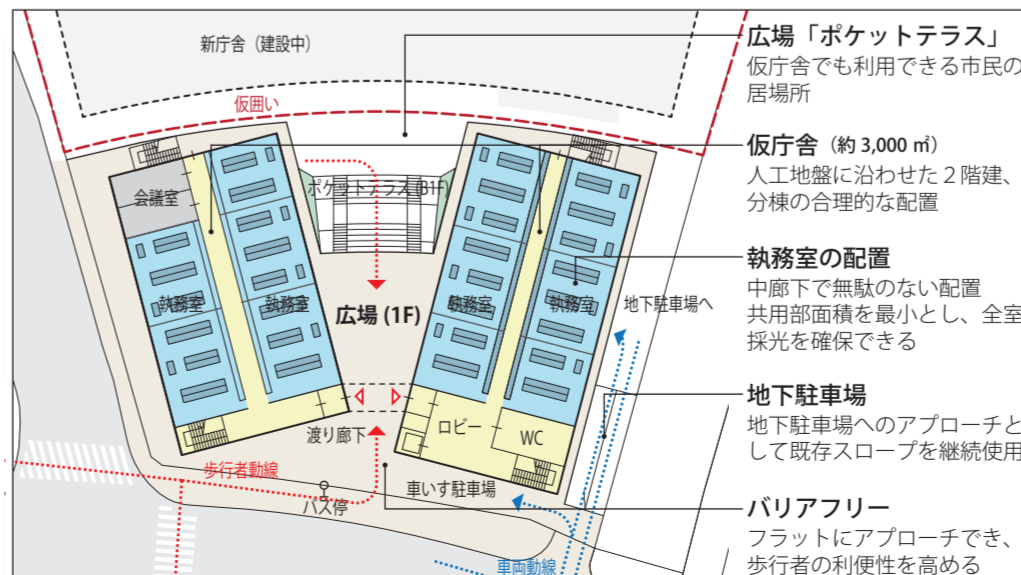


図13- 現庁舎駐車場の仮庁舎配置

「機能性」

- 機能的で快適な執務環境
- 共用部面積を最小とした中廊下型の執務室配置とし、無駄のない計画とします。
- 執務室の奥行きを約9mとし、現庁舎の執務室よりも広く、レイアウトのしやすい計画とします。
- 全ての部屋で採光を得られる、快適な環境とします。
- 入居する部局に応じたレイアウト検討を行います。
- 二階建ての分棟庁舎を、広場を渡る外部廊下で接続する配置計画とします。

「利便性」

- 入居部局、立地条件に応じた適切な配慮
- 窓口部門の入居が予想される総合福祉センター第二駐車場の仮庁舎は、駐車場から窓口部門へアクセスしやすい計画とします。
- 議会部門の入居が予想される市民会館駐車場の仮庁舎は、会議室のある市民会館管理棟との連携のしやすい計画とします。
- 駐車台数の不足が予想される市民会館駐車場の仮庁舎は、1Fを駐車場、2、3Fを庁舎として利用できる計画とします。



図14- 総合福祉センター第二駐車場の仮庁舎配置 (検討案)



図15- 市民会館駐車場の仮庁舎配置 (検討案)